

アジアを見る眼

110

社会主義後のウズベキスタン

変わる国と揺れる人々の心

ティムール・ダダバエフ 著

アジア経済研究所

社会主義後の ウズベキスタン

—— 変わる国と
揺れる人々の心

ティムール・ダダバエフ 著



アジア経済研究所

カバーデザイン 長峰亜里



9784258051106

ISBN978-4-258-05110-6
C1230 ¥980E



1921230009801

定価(本体980円+税)



IDE-JETRO

社会主義後のウズベキスタン

——変わる国と揺れる人々の心

テームールダバエフ 著

ソ連邦と社会主義という制度が崩壊したのち、
人々はどのような理想や夢を抱き、
悩みをかかえているのか。
国家、社会、そして家族に対する考え方は
どのように変化したのだろうか。

アジアを見る眼 110

IDE-JETRO

ISBN978-4-258-05110-6 C1230

アジアを見る眼

110

社会主義後のウズベキスタン

変わる国と
揺れる人々の心

テームールダバエフ 著

アジア経済研究所

アジアを見る眼

110

テームールダバエフ 著

ソ連邦と社会主義という制度が崩壊したのち、
人々はどのような理想や夢を抱き、
悩みをかかえているのか。
国家、社会、そして家族に対する考え方は
どのように変化したのだろうか。

IDE-JETRO

社会主義後のウズベキスタン

——変わる国と揺れる人々の心

アジア経済研究所

ティムール・ダダバエフ 著

社会主義後のウズベキスタン

変わる国と揺れる人々の心

アジア経済研究所

目次

序章

自分の国はどこ？ 失われた国の行方

3

I ウズベキスタンの基礎データ

7

II ソビエト政権下でのウズベキスタンの形成

13

III ウズベキスタンにおけるペレストロイカ

16

第1章

ソ連邦崩壊後の国家・民族の認識

21

I ソ連邦から独立国家としてのウズベキスタンへ

22

1 ソ連時代の国家認識

22

2 「ソビエト国民」形成の試みと失敗

24

II ソ連邦崩壊後の国家建設と多民族社会

1 新国家建設と多民族社会 31

2 民族間の相互イメージ 33

III 言語と人々のアイデンティティ

1 変わりゆくロシア語の地位 40

2 ロシア化された人々 「ルシー」 43

3 外国との関係とロシア語の地位の変容 44

4 ウズベク語の表記の変容 46

第2章 人々のアイデンティティを形づくるもの

I ウズベキスタンにおける宗教

1 ソビエト政権とウズベキスタンのイスラーム 51

2 独立後のイスラーム 58

3 イスラーム原理主義とその原因 62

第3章 国民の生活と政治

Ⅱ ウズベキスタンのマハツラ

1 マハツラの伝統的な機能 67

2 人々から見たソ連時代のマハツラ 69

3 独立後のマハツラの姿 75

Ⅲ 郷土意識

1 ソビエト政権とウズベキスタンの地域主義 79

2 独立後の地域主義 82

Ⅰ 変わりゆく政府と国民の関係

1 政治改革と国民生活 89

2 クーデタ、ソ連邦崩壊と「未成熟」な独立 92

Ⅱ 独立後の政権、民主化と政治のあり方

1 政治環境の変化 97

第4章 国民の生活と経済

- 2 改革の試練 105
- 3 安全優先の時期、九・一一とその後 115

I 市場経済への転換と国民生活への影響

- 1 変わりゆく公共サービスと低下する生活レベル 125
- 2 国民から見た政府の経済改革 128

II 世帯構成と収入

- 1 家族構成 130
- 2 世帯収入 131

III 過去と現在の生活に対する評価

- 1 破綻した国債制度 135
- 2 生活の変化から精神面の変化へ 137
- 3 ソ連時代へのノスタルジー 141

第5章

ソ連邦崩壊後の家庭内関係と家族像

161

I

ソ連邦崩壊後のウズベキスタンにおける家族像

162

1 人々は何を重要だと考えているか 162

2 親は子供たちに何を望むか 165

II 結婚のあり方と結婚観の変化

169

1 ウズベキスタンにおける結婚の重要性 169

2 お見合い 170

3 婚約 173

4 結婚式 175

4 「国頼み」の考え方 147

5 個人レベルでの国家からの自立 151

6 転換期の教育 153

7 悪い子は良い子に 157

Ⅲ 結婚観の変化

1 離婚率の増加 179

2 夫婦関係の変容 181

第6章 「未来の偉大な国」にはどのような未来があるのか

185

I イデオロギーおよび国家に対する信頼の変化

Ⅱ 国家に対する国民の姿勢

1 低下する政府機関への信頼 191

2 国民の政治参加 199

Ⅲ 国民の政府に対する期待

202

191 187

■ おわりに

207

ウズベキスタンと日本

212



ウズベキスタン共和国(Republic of Uzbekistan)

首都	タシケント
言語	ウズベク語
政体	共和制
独立宣言	1991年8月31日
人口	2,710万(2008年)
面積	44万7,400km ²
主な宗教	スンナ派イスラーム
通貨	ソム
1人当たりGDP(PPP)(米ドル)	1,700(2004年推計)
主要輸出品目 (1998年推計)	綿花(41.5%) 金(9.6%) エネルギー製品(9.6%) その他(食品、自動車など)
実質GDP成長率*(%)	7.3
貿易収支*(米ドル)	20億550万
経常収支*(米ドル)	31億3,600万
外貨準備高*(金を含まない、米ドル)	46億400万
対外債務残高*(米ドル)	39億3,800万
為替レート*	
	(1米ドルにつき、ソム、期中平均、公定レート)
	1,218.91



(注)* 2006年データ。

(出所) 人口以外のデータは、小松久男他編『中央ユーラシアを知る事典』(平凡社、2006年、pp.578-579)、『ジェトロ貿易投資白書 2007年版』(日本貿易振興機構、2007年)をもとに作成。

ウズベキスタンの主要国別輸出入

(単位：100万ドル、%)

	輸 出 (FOB)				輸 入 (CIF)				
	2005年		2006年		2005年		2006年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
ロシア	1,026.5	1,661.7	26.0	61.9	韓国	1,034.0	1,166.4	26.5	12.8
イタリヤ	431.7	620.6	9.7	43.8	中国	513.0	568.2	12.9	10.8
トルコ	346.3	576.9	9.0	66.6	ウズベキスタン	269.5	413.9	9.4	53.6
中国	84.0	361.2	5.7	330.0	中国	257.2	341.4	7.8	32.7
ウズベキスタン	228.3	356.6	5.6	56.2	トルコ	246.8	254.1	5.8	3.0
イギリス	247.0	304.7	4.8	23.4	中国	239.9	246.9	5.6	2.9
フランス	335.7	184.4	2.9	-45.1	韓国	177.8	150.4	3.4	-15.4
ドイツ	170.4	161.7	2.5	-5.1	中国	152.0	126.4	2.9	-16.8
米国	110.1	119.1	1.9	8.2	ウズベキスタン	57.6	93.8	2.1	62.8
シンガポール	71.2	105.3	1.6	47.9	中国	94.6	70.3	1.6	-25.7
フランス	89.2	87.2	1.4	-2.2	韓国	49.4	59.8	1.4	21.1
日本	31.7	27.5	0.4	-13.2	中国	53.6	43.2	1.0	-19.4
その他	2,236.7	1,822.9	28.5	-18.5	その他	945.9	861.1	19.6	-9.0
輸 出 総 額	5,408.8	6,389.8	100.0	18.1	輸 入 総 額	4,091.3	4,395.9	100.0	7.4

(注) サービスを含む。
 (出所) 『シエトロ貿易投資白書2007年版』日本貿易振興機構、2007年。(原出所：ウズベキスタン国家統計委員会資料)

ウズベキスタンの主要品目別輸出入構成比（2006年）

（%）

輸 出 (FOB)		輸 入 (CIF)	
綿 織 維	17.2	機 械 ・ 設 備	40.3
エ ネ ル ギ ー 製 品	13.1	化 学 品 ・ プ ラ ス チ ッ ク 製 品	15.0
鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	12.9	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	10.4
サ ー ビ ス	12.1	サ ー ビ ス	9.1
機 械 ・ 設 備	10.1	食 料 品	8.1
食 料 品	7.9	エ ネ ル ギ ー 製 品	4.3
化 学 品 ・ プ ラ ス チ ッ ク 製 品	5.6	そ の 他	12.8
そ の 他	21.1		
合 計	100.0	合 計	100.0

（出所）『ジェトロ貿易投資白書2007年版』日本貿易振興機構、2007年より筆者作成。（原出所：ウズベキスタン国家統計委員会資料）

-
- | | |
|------|--|
| 1968 | ソ連軍、チェコスロバキアに軍事介入 |
| 1969 | 中ソ国境で武力衝突 |
| 1979 | ソ連軍、アフガニスタンに軍事介入 |
| 1983 | ウズベキスタンの綿花汚職摘発始まる（綿花事件） |
| 1985 | ゴルバチョフ、ソ連共産党書記長に就任（1985-1991）、ペレストロイカを打ち出す |
| 1988 | ビルリク人民運動結成 |
| 1989 | カリモフ第一書記に就任。フェルガナ事件発生。ソ連軍、アフガニスタンから撤退完了 |
| 1990 | ウズベキスタン主権宣言。ナマンガン事件発生 |
| 1991 | ソ連での保守派による8月クーデタ。これを契機に中央アジア諸国、年末にかけて順次独立を宣言。ソ連邦解体。ウズベキスタン共和国に改称。CIS誕生
初の国民投票による大統領選挙で、ウズベキスタン初代大統領にカリモフ氏選出 |
| 1992 | タシケントで学生暴動発生。国連加盟 |
| 1994 | ウズベキスタンとカザフスタン、単一経済圏を創設（4月にキルギスも加盟）、ロシア・チェチェン和平条約調印 |
| 1995 | カリモフ大統領の任期2000年まで延長（国民投票） |
| 1996 | 上海ファイブ（中国、ロシア、カザフスタン、キルギス、タジキスタン加盟）誕生 |
| 1997 | タジキスタン内戦終結 |
| 1999 | ウズベキスタン・タシケント同時爆破テロ事件発生（2・16テロ事件） |
| 2000 | カリモフ氏が大統領に再選 |
| 2001 | 上海ファイブが上海協力機構になる（ウズベキスタンも加盟）、米国で9・11同時多発テロ事件発生 |
| 2002 | 最高会議で大統領任期を5年から7年に延長するなどの憲法改正案を承認 |
| 2004 | タシケント・ブハラ爆破事件など、連続テロ発生 |
| 2005 | アンディジャン事件発生 |
| 2007 | カリモフ氏が大統領に選出 |
-

ウズベキスタン年表

- 14世紀初頭 チャガタイ家の主権回復
- 14世紀前半 ジョチ・ウルススのウズベク・ハン、イスラーム受容
- 1361 トゥグルク・ティムール、チャガタイ・ウルスを統一
- 1370 ティムール朝成立
- 1380 ティムール、西アジア、カフカースへの遠征を開始
- 1409 シャー・ルフ、サマルカンドを占領、ティムール朝の君主に即位
- 1500 シャイバーン朝成立
- 1507 シャイバーニー・ハン、ティムール朝を滅ぼす
- 1518 ホラズムにヒヴァ・ハン国成立
- 1804 ヒヴァ・ハン国にコンギラト朝成立
- 1809 コーカンド・ハン国タシケントを占領
- 1820年代 帝政ロシア、カザフの小ジョズと中ジョズに直接統治を導入
- 1865 中央アジア南部に侵攻したロシア軍タシケントを占領
- 1868 ブハラ・アミール国、ロシアの保護国となる
- 1873 ロシア軍、ヒヴァに入域。ヒヴァ・ハン国、ロシアの保護国となる
- 1876 ロシア、コーカンド・ハン国を廃して、フェルガナ州を設置
- 1905 ロシアで血の日曜日事件を契機とし、1905年革命始まる
- 1917 ロシア二月革命。
ロシア十月革命。タシケントにソビエト政権成立
- 1918 タシケントのソビエト政権、コーカンドのトルキスタン自治政府を打倒。パスマチ(反ソビエト)運動開始。青年部ハラ人の武装クーデタ失敗
- 1920 ヒヴァ・ハン国で革命
- 1922 ソビエト社会主義共和国連邦(以下、ソ連邦と略記)成立
- 1924 中央アジアの民族・共和国境界画定を承認
ソ連邦の一部としてウズベク・ソビエト社会主義共和国成立
- 1937 ロシア極東から中央アジアへ、朝鮮人強制移住
- 1939 第二次世界大戦始まる
- 1941 ドイツ軍、ソ連邦へ侵攻
- 1945 第二次世界大戦終結
- 1953 スターリン死去。フルシチョフ、共産党第一書記に就任(1953-1964)
- 1956 ソ連軍、ハンガリーに軍事介入(ハンガリー事件)
-

ティムール・ダダバエフ 著

社会主義後のウズベキスタン

変わる国と揺れる人々の心

アジア経済研究所

著者紹介

ティムール・ダダバエフ (Timur Dadabaev)

1975年タシケント、ウズベキスタン生まれ。筑波大学人文社会科学研究所准教授、東京大学人文社会科学研究所付属次世代人文学開発センター客員准教授。ケンブリッジ大学、(東京財団教員海外派遣プログラム)客員教員(2006-2007年)、オックスフォード・イスラーム研究センター(OCIS)Al-Bukhariフェロー(2006年)、東京大学東洋文化研究所助教授(2004-2006年)、国立民族学博物館・日本学術振興会外国人特別研究員(2002-2004年)、国連大学秋野豊基金フェロー(2004-2005年)、UNESCO 小淵恵三基金フェロー(2002-2003年)を得て現職。佐藤栄作記念国連大学協賛財団による第19回佐藤栄作賞最優秀賞(2003年)。

主な著書には、『マハッラの実像 中央アジア社会の伝統と変容』東京大学出版会、2006年と *Towards Post-Soviet Central Asian Regional Integration: A Scheme for Transitional States*, Akashi Shoten, 2004がある。共著には、Takashi Inoguchi, Akihiko Tanaka, Sigeto Sonoda and Timur Dadabaev eds., *Human Beliefs and Values in Striding Asia*, Akashi Shoten, 2006(日本語版は、猪口孝、田中明彦、園田茂人、ティムール・ダダバエフ編『躍動するアジアの信念と価値観』明石書店、2007年)、Takashi Inoguchi, Miguel Basanez, Akihiko Tanaka and Timur Dadabaev eds., *Values and Life Styles in Urban Asia*, Mexico City: SIGLO XXI Editors, 2005(日本語版は、猪口孝、ミゲル・バサネズ、田中明彦、ティムール・ダダバエフ編『アジア都市部の価値観とライフ・スタイル』明石書店、2005年)などがある。

社会主義後のウズベキスタン

変わる国と揺れる人々の心

アジアを見る眼 110

2008年6月30日発行 ©

定価： 本体 980円 + 税

著者 ティムール・ダダバエフ

発行所 アジア経済研究所
独立行政法人日本貿易振興機構

千葉県美浜区若葉 3-2-2 〒261-8545

研究支援部 電話 043(299)9735(販売)

FAX 043(299)9736(販売)

E-mail: syuppan@ide.go.jp <http://www.ide.go.jp>

製作 (株)弦

印刷

落丁・乱丁はお取替え致します

無断転載を禁ず

ISBN978-4-258-05110-6 C1230

地中海から太平洋まで、この広くアジアと呼ばれる地帯には幾十かの国がある。その大部分は第一次世界大戦以後古い植民地体制から脱して新興の独立国となったものである。世界の人口の半ば以上のものがここにあり、これらの新興国はそれぞれの立場に立つて、建国創業の仕事に力をつくしている。

その業は果たして障害なく着々と進んでおるか。だれもがこれに対して頭をかしげるであろう。そしてだれもがアジアは「流動的」であるという。

流動的とは何であるか。また何でないか。いくたの混みいった事態のなかを、一本の金の線が生々発展的に縫っているのも流動的である。経済は着々と成長し、政治は一つの体制のなかで徐々に整備されているような場合がそれである。

アジア諸国の大部分については、事態はこのように簡単ではない。もちろん、経済の場面には大きな発展・成長の芽生えはある。しかし、他面においてそれを抑制するものが力づよい。またおよそ発展や成長を考へる場合、在来流の理解によるパターンを以てするのが果たして正しいか、との疑問もでてくる。さらに政治体制については、イデオロギーの対立、複合民族国家における特殊なナショナリズムに伴う民族や種族間の闘争があつて、政治的安定はなかなか期すべくもない。独立国家の幼年期に伴う政治的、行政的未熟もまた考へられるべき大きな原因である。

こういう次第で、アジアが流動的であるとは、一つの混沌を意味するものといえようか。そしてその上に立つていかなる経済・社会・政治の体制が整いだされるであろうか。この意味で二世紀後半のアジアは世界における「問題」、いな最も大きな「問題」である。

アジア経済研究所は、まさにこの「問題」の理解に向かつて、ひたすら前進をつづけている。われわれの期するところは、まさにそれぞれの国の現実に即した精確な知識を供しよう、そしてこの大きな「問題」について静かなサーピスをいたそうとするに尽きる。設立以来すでに七十年余り、専らそういう道を歩んできたし、今後もそれに変わりはない。このシリーズは、多くの研究や調査の報告書、現地調査を土台として、アジアについての解説書・教養書たることを目標とするものである。

一九六六年三月

アジア経済研究所 東畑精一